所　管　事　務　調　査　報　告

平成２９年１１月２９日

薩摩川内市議会市民福祉委員会
委員長　　福　田　俊　一　郎

１　調査事項
高齢者支援について

２　調査先
山口県周南市、大阪府泉南市

３　調査日
１０月１６日から１８日まで（３日間）

４　出席委員
福田委員長、森満副委員長、新原委員、瀬尾委員、杉薗委員

５　調査目的
地域と行政が一体となって高齢者を支援している取組と認知症高齢者を地域を挙げて見守っている取組について調査し、本市における今後の施策展開の課題等を調査する。

６　調査概要

⑴　もやいネットセンター推進事業について（山口県周南市）

周南市では、高齢者等をともに支える、つなぐ、守るという思いを込め、もやい結びの「もやい」を冠したもやいネットセンターを市役所内（地域福祉課）に設置している。同センターは総合的な福祉相談窓口であり、高齢者等からの相談内容により、保健師や社会福祉士などの専門職が相談者のニーズにあった情報の提供や医療・福祉等関係機関の紹介を行っており、相談受付は平日の日中だけではなく、夜間や休日も民間事業者に委託して対応できる体制となっている。また、市内５地域に地域包括支援センターを設置しているほか、地域の見守り支えあいの拠点として市内３１地区の各社会福祉協議会内にもやいネット地区ステーションが設置されており、３層構造による高齢者等の支援が行われている。このほか、各家庭を訪問する機会のある民間事業者（もやいネット支援事業者）と協定を締結し、自宅訪問等において見守りを行ってもらい、異変に気付いた際は、もやいネットセンターに連絡することとしている。

さらに、高齢者等が行方不明になった場合には、あらかじめ登録した身体的特徴などを家族の同意の下、事前に登録した市民やもやいネット支援事業者等にメールサービスを利用して配信し、捜索の協力を求めている。

⑵　認知症ケア推進事業の取組について（大阪府泉南市）

泉南市では、「認知症でもだいじょうぶな町づくり」をスローガンに、認知症に対する理解を促進させる事業や、マンパワーの育成等に積極的に取り組んでいる。特に、認知症サポーターの養成に力点を置き、企業、地域、学

校などでの養成講座を多数開催し、子どもたちを対象とした養成講座では、未就学児をリトルキッズサポーター、小学生をキッズサポーター、中学生をジュニアサポーター、高校生をヤングサポーターとして、それぞれの年代に合わせたサポーターの養成に取り組んでいる。

また、平成２３年から実施しているＳＯＳ徘徊模擬訓練では、キッズサポーターによる高齢者への声かけ体験を行っている。これは、児童がグループ単位で街中を捜索しながら高齢者役に声をかけるもので、実体験を通した見守り活動が行われている。

このような取組を重ねた結果、本年７月末にはサポーター数が１４，５００人を超え、大阪府内でも人口に占めるサポーターの割合が最も高く、市民の認知症に対する相互理解にもつながっているとのことであった。

7　所感

⑴　周南市では、総合相談窓口が設けられ、高齢者等が戸惑うことなく速やかに相談ができる体制が整っており、本市においても効率的かつ効果的な仕組みとして参考となる取組である。

⑵　非常時にメールサービスを利用して徘徊者の情報提供を呼びかける周南市の取組については、関係機関等との連携が瞬時に図れることから、本市においても導入することができないか検討する必要がある。

⑶　本市においても、地域全体で認知症高齢者等を見守っていく必要があることから、幼年期からの幅広い世代に対して認知症サポーター養成講座を実施し、地域の中での理解者や支援者（サポーター）を増やしている泉南市の取組は、参考となる事例である。